キャラクター名
紅　奏汰（くれない　そうた）

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ ウロボロス	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	画像参照	性別	野郎
覚醒	感染	衝動	自傷	初期侵食率	33 %
出自	名家の生まれ	経験	平凡	邂逅	いいひと

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	2			7
感覚	1	0	0			1
精神	2	0	1			3
社会	1	0	0			1

HP	37
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
破壊の爪	白兵	7r+3	1	10		
徒手空拳	白兵	11r+3	1	12		浸食：9　R浸食：3　１１ＤＸ@８
キングパンチ	白兵	12r+3	1	16		100～159　R浸食：5　12ＤＸ@８
徒手空拳（変身後）	白兵	12r+3	1	16		100～159　R浸食：5　12ＤＸ@８

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Ｄロイス：古代種	P	N		
エマ	P 初めての、ラヴ	N　隔意		
	P	N		
黒世 深冬(クロセ　ミフユ)	P　友情	N 劣等感		
朝比奈 蝶舞 (アサヒナ カレン)	P ありがとう・・・ありがとう・・・	N　恐怖		
イスルギ支部長	P　好意	N　隔意		
	P 同じ姿・・・！	N		

最大財産P:　2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセイトレイト：Ｕ	2	2	メジャー					
効果：C値 -Lv								
神獣撃	1	2	メジャー				80↑	
効果：完全獣化中のみ　攻撃力+［Ｌｖ+2］Ｄ　完全獣化解除								
完全獣化	2	6	マイナー					
効果：シーン中、素手しか使えなくなる　あらゆる【肉体】判定ダイス+（Ｌｖ+２）								
破壊の爪	2	3	マイナー					
効果：素手武器生成								
ハンティングスタイル	1	1	マイナー					
効果：戦闘移動を封鎖の影響を受けない　ＬＶ分回のみ								
フラットシフト	1	0	メジャー/リア					
効果：								
原初の赤：爪剣	1	4	メジャー					
効果：組み合わせた白兵攻撃力+（Ｌｖ×２）　対するドッジ-1								
獣の力	1	2	メジャー					
効果：組み合わせた白兵攻撃力+（Ｌｖ×２）								
イージーフェイカー	★							
効果：元：かしづく歯車　精密動作が出来る								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

＜背景＞
かつてＰＣ２のご先祖様にかしづいていた一族の末裔。
彼らは血を授けられる事で眷族（今でいう古代種オーヴァード）となり、主の為に力を振るっていた。
しかし時代が流れることで貴族社会は廃れ、それまでの規律が音を立てて崩れ始める。
いくら異能を持っていようと世間の流れには勝てず、当時のドタバタに巻き込まれ解散するはめになる。
そんな中で今でいう日本に眷族の一人が流れつき、こうして彼の代まで続く事になる。

＜現状の状態＞
オーヴァードではあるのだが、先祖の血が薄まってきたことで素で発動できるのはイージーエフェクト程度。
（しかもイージーエフェクトを発動しても認知できているわけでは無い。）
他の能力は、いつでもＯＮ出来るのをＯＦＦにしっぱなしの状態と言っていい。
まさに『目覚めていない』オーヴァード。
彼の血を活性化させることで、ＯＦＦになっているモノをＯＮに出来れば話は別だが・・・

＜人物＞
血に流れる因果がアレなだけで、一応フツーの高校生。
基本は街はずれの洋館に住んでいる。（上記の流れついた眷族が建てたモノ）
親は出張を解さないワーカーホリックの為、基本一人暮らし。（故に生計では困っていない）
『正しくあれ』的な貴族の教えの元に育てられたため、良し悪しをキチンと分別できる性格。
しかしその反動であまり褒められたことが無いためか、なにかをするたびに